Bike is Good!
www.bike-joy.com/b

「Bike is Good!」
自転車の良さは90%の人が指示していますが、支持率95%に向け、
その普遍性や可能性を実証実験から再考してみました・・・

再修案

～THT Japan Ver.2･6 サイクリングネットワークの再構築～

サイクルエイドジャパン・リアル

一般社団法人 自転車協会 御中

はじめに・・・・・・・・・・・・・・P2
テトラバランス“改”・・・・・・・・・P3
さくら前線ラリー2014・・・・・・・P4
おにぎりラリー2014・・・・・・・・P5
マルチCCと春需でソフト・・・・P6

B×Cの提案・他・・・・・・・・・別紙

自転車遊び研究所
COURSE CREATE
Open-road, Closed-circuit, School, Media, Academy

〒740－0036
山口県岩国市藤生町1-30-6
TEL 090－3170－6658
InterFAX 03－6368-4661
E-mail Coursecreate@aol.com
URL http://www.bike-joy.com

2013年10月24日版(2012年12月8日起稿)

転遊研活動指針 Annex 《 1 》

… はじめに …

再修案

京都議定書を遠因とする**平成エコ系自転車ブーム**に、東日本大震災復興や地域振興なども絡まって、大規模なロングライドイベントが目白押しです。また、2020年の東京オリンピックも開催が決定して、自転車競技にも力が入ると期待しています。

但し、**MTBブーム**の折り、スキー場のグリーンシーズン利用企画が新規購買者のイベント参加がひと回りしたところで減速したり、アトランタオリンピックで正式採用になったにもかかわらず、メダル種目として期待薄となるとマイナースポーツ扱いになったりと、**苦い経験**もしています。

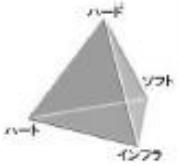
昭和30年代の第一次サイクリングブーム。舗装率が低く車もそう多くない道路事情が、自転車の普遍的な楽しさを容認した時代に、財団法人日本サイクリング協会も誕生しました。

それに続くサイクリングブーム第二世代と自負している私は、先輩たちの轍を見ながら、どちらかと言うと、隙間的なエキセントリックな自転車ソフト(**MTBラリーレイドやブルベ**)に力を入れていました。その結果、MTBツーリングやロングライドのカスタマイズ企画にお呼びがかかる立場となっています。

売れ筋の車種が出現する度に繰り返される自転車ブーム。時代背景も関連していますが、普遍的な楽しさの追及や走行環境の整備はその**ブームの尺**には納まりません。

MTBブームの時にロングライドの可能性を提案しましたがほぼ無視をされ、今はMTBの可能性を継続提案していますが低空飛行の状態です。そして今回の提案の中核は「ポタリング」です。

自転車愛好家のレベルが上級・初級を問わず拡大し、一般ユーザーが自転車の良さや可能性を感じ始めている昨今、**年齢性別車種不問で日本のどこでも楽しめる自転車ソフト**があれば、様々な関係者が自転車環境整備に向けた意見交換のできる「サイクリングネットワークの再構築」が可能だと思います。



<<自転車さんぽネットワークの提案>>

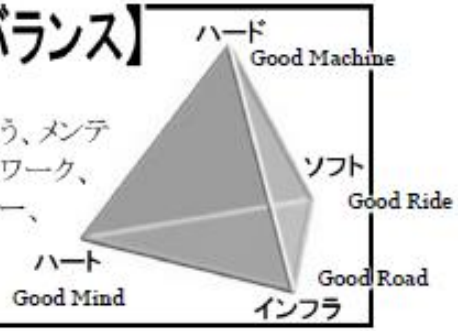
・・・ テトラバランス“改” ・・・

再修案

「自転車の驚きは普遍」と言う意味を込めた「Bike is Good!」。
それをキャッチフレーズに日本の風土に合った自転車遊びを探る実証実験を行ってきました。
そして「THT26」に辿りつき、さらに副産物として見つけたのが「テトラバランス」です。

自転車環境正四面体 【テトラバランス】

自転車多様性を、**ハード：自転車**（作る、売る、使う、メンテナンス）、**ソフト：使い方**（楽しむ、仕掛ける、ネットワーク、日常利用と余暇活動）、**ハート：人**（ルール、マナー、テクニック）、**インフラ：環境**（道路、セキュリティ、保険、サイクリングクラブ）の4つに凝縮。



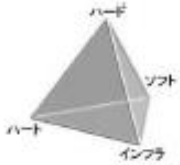
2012年、2013年とサイクルエイドジャパンに係って、普通の道を普通に走るイベントの必要性と難しさを改めて感じました。
ユーザーが初めて自転車に接するのは自転車店であり、そこでの情報はヒヨコのすり込み効果と同じで非常に重要です。
SBAAプラスが目指すのは、良い自転車の販売と、良い情報の発信だと理解しています。

繰り返される自転車ブームにあって、置き去りにされている自転車の走行環境の整備。
それは、ユーザーや他の道路利用者、さらに管理者の全てが望んでいますが、視点の差異があり、一筋縄ではありません。

その差異は一般利用、スポーツ利用、競技アイテムと、自転車界にも内在していて、それを取り払う妙薬となりうるのが「自転車さんぽネットワーク」と考えます。

車種を選ばない、ショップレベルで主催が可能、ツーリストが調査を担当し、運営は競技役員が行う。さらに関係各所の理解が得られる。グッドマインドをグッドマシンで学び、グッドロードでグッドライドを行う。THT26はそんな夢の自転車ソフトです。

サイクリングネットワーク再構築のテトラバランス的最終目標は、地域貢献と人材活用を視野に入れた「サイクリングクラブ」の充実であり、その課題は、自転車走行環境のセキュリティの不備に正面から向き合うことです。



<<SBA-AプラスMindの提案>>

・・・ さくら前線ラリー2014（素案） ・・・再修案

自転車さんぽ♦♦萌黄のラリーデイ／さくら前線ラリー2014

◇日程・会場　◎県大会：3月～5月
（大分県、福岡県、徳島県、山口県、広島県、島根県、京都府、大阪府、奈良県、愛知県、富山県、長野県、山梨県、東京都、神奈川県、栃木県、宮城県、秋田県、岩手県、北海道）
◎決勝大会：6月上旬の土日（福島県＊＊＊市＊＊＊公園集合）

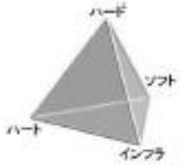
◇実施内容　THT26をさくら前線の北上に合わすように各県で開催し、その県代表1組が決勝大会に進出する、ゲームツーリングのトーナメント大会です。ベースのTHT26は、県大会では通常のルールで行うが、決勝大会では前日に、参加者が試走を兼ねた調査を行い、参加者セレクトTPを追加する。
※THT26／エリア内26箇所のトレジャーポイント（TP）から、8箇所以上を巡り、最少訪問者TPを当てる、逆転の発想のサイクルオリエンテーリング（地図遊び）です。偶然性優先のため、誰にも上位のチャンスがあり、年齢性別車種不問で、グループ走行では家族的に、全TP狙いでは冒険的に楽しめます。

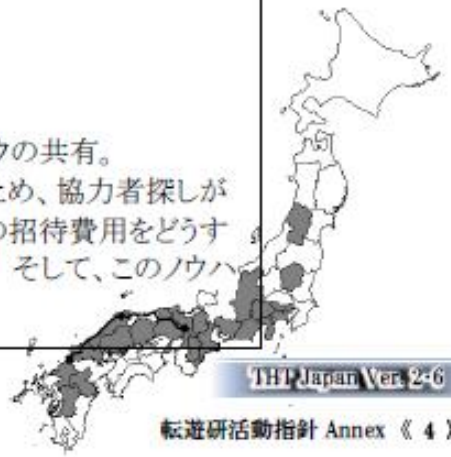
◇応募方法　各地のSBAAプラスショップ店頭または、Web申込で。
参加費：ソロ 2,500 円（高校生以上）、ペア 3,500 円（中学生以上）、トリオ 4,500 円（小学生以上）
※定員：50 組 100 名　　※決勝大会進出者は参加費無料。（一般は有料参加可能）

◇主催・運営・後援・他　◎よびかけ：THTジャパン準備委員会
◎県大会運営：各運営チーム　◎決勝大会：決勝大会運営チーム
◎後援：各自転車関連団体、メディア、自治体、省庁、他
◎企画協力：各自転車メーカー、他
◎特別協力：一般社団法人自転車協会

◇目的　THT26とSBAAプラスの親和性の検証と、各地の協力者の発掘およびノウハウの共有。

◇懸案事項　県大会、決勝大会の予定21都道府県の内、6会場はTHT26未経験エリアのため、協力者探しが急務。調査・運営費用は参加費の範囲内で可能ですが、PR費用や決勝大会の招待費用をどうするか？また事務局経費の捻出も課題。（日程調整、会場サイン、景品管理、他）　そして、このノウハウを「SBAAプラスMind」として活かすための仕組みとは？





・・・ おにぎりラリー2014（素案） ・・・再修案

自転車さんぽ♦♦紅葉のラリーデイ／おにぎりラリー2014

◇日程・会場　◎ブロック大会：10月～12月（※地区大会：8月～11月）
（北海道ブロック大会、東北ブロック大会、関東ブロック大会、中部ブロック大会、関西ブロック大会、中国ブロック大会、四国ブロック大会、九州ブロック大会）
◎決勝大会：12月中旬の土日（奈良県＊＊＊町＊＊＊公園集合）

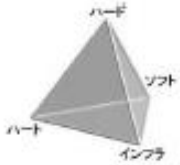
◇実施内容　実りの秋を象徴するお米の収穫。サイクルツーリングはエネルギー消耗スポーツでもあり、空腹は最高の調味料。走行後におにぎりをほおばるイメージでTHT26を8ブロックで開催し、そのブロック代表3組が決勝大会に進出する。ベースのTHT26は、ブロック大会では通常のルールで行うが、前日にマナースクールや運営セミナーを行い、決勝大会はさくら前線ラリーと同様に、前日に参加者が試走を兼ねた調査を行い、参加者セレクトTPを追加する。
※THT26／さくら前線ラリー参照・・・

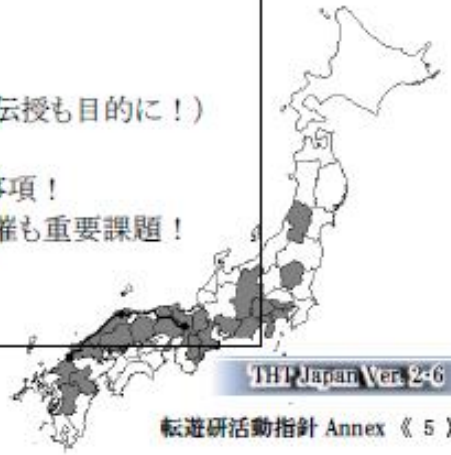
◇応募方法　各地のSBAAプラスショップ店頭または、Web申込で。
参加費：ソロ 2,500 円（高校生以上）、ペア 3,500 円（中学生以上）、トリオ 4,500 円（小学生以上）
※定員：50 組 100 名　※決勝大会進出者は参加費無料。（一般は有料参加可能）

◇主催・運営・後援・他　◎よびかけ：THTジャパン準備委員会
◎ブロック大会運営：各運営チーム　◎決勝大会：決勝大会運営チーム
◎後援：各自転車関連団体、メディア、自治体、省庁、他
◎企画協力：各自転車メーカー、他
◎特別協力：自転車協会

◇目的　さくら前線ラリーと同じ。（但し、翌年スケジュール調整も並行するため、ノウハウ伝授も目的に！）

◇懸案事項　さくら前線ラリーと同じ。
但し、ブロック大会より前に実施予定の地区大会の扱いをどうするかは要検討事項！
また、47都道府県開催を目指して、ノウハウ伝授の為の運営セミナーも同時開催も重要課題！





・・・「マルチサイクリングクラブ」と「春需でソフトも売ろう！」・・・

再修案

マルチサイクリングクラブ

昭和30年代の第一次ブーム、輪行車を中心とした第二次ブーム、その後の、トライアスロン車、マウンテンバイク、ホールディングバイク、そしてロードレーサーと、主役が交代している日本の自転車シーンですが、自転車を楽しむノウハウの伝授や、走行環境の確保などのネットワーク活動も不連続と言わざるを得ません。
確かにサイクリングや自転車競技で全国組織がありますが、多様化する"自転車"に、対応できていません。
「サイクリングネットワークの再構築」は、マナースクールからイベント運営までをカバーする、地域密着型の「マルチサイクリングクラブ」の出現を手助けするものです。

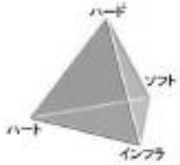
春需でソフトも売ろう！

ユーザーが初めて自転車の情報を得るところ、それは自転車店です。良い自転車を手に入れ、良い情報もそこで入手できれば、グッドユーザーの誕生です。そのためには、豊富な情報があることが前提になります。
この「サイクリングネットワークの再構築」で目指すのは、**"活動指針P2"**にあるユザワヤ方式的のソフト提供ですが、そこに至るには長い道のりが必要なので、最少の目標として、等身大イベント「自転車さんぽ」の全国展開を提案します。
つまりマルチサイクリングクラブの共通活動は、マナースクールを伴う自転車さんぽの運営となり、それがそのままネットワーク再構築に直結すると考えます。

自転車さんぽ境界線

そして大事なのが自転車の多様性の認識です。P2の下から2行目にある「様々な関係者」とは、国内外のメーカーを始め、関係団体、監督官庁、さらにメディアや活動団体、ショップ、スポーツ利用者、一般ユーザーまでを含みます。
「自転車さんぽ境界線」は、やはり**"活動指針P2"**にあるように、自転車の日常利用とスポーツ利用の境目ですが、それを「隔たり」では無く「グラデーション」にするように、P3の下から4行目にもある人材活用を提案したいと思います。

※BEI：日本自転車環境整備機構・自転車さんぽ事業部　※JTB：JTB法人営業・旅チャリプロジェクト



<<SBA-A＋BEI＋JTBの提案>>